

平成30年9月20日(木)

「時代遅れ」

「時代遅れ」という歌がある。阿久 悠 作詞、森田公一 作曲の歌で、河島英五が歌ったものである。

一日二杯の 酒を飲み さかなは特に こだわらず  
マイクが来たなら 微笑(ほほ)んで 十八番(おはこ)を一つ 歌うだけ  
妻には涙を 見せないで 子供に愚痴(ぐち)を きかせずに  
男の嘆きは ほろ酔いで 酒場の隅に 置いて行(ゆ)く  
目立たぬように はしゃがぬように 似合わぬことは 無理をせず  
人の心を見つめつづける 時代おくれの 男になりたい

不器用だけれど しらけずに 純粹だけれど 野暮じゃなく  
上手なお酒を 飲みながら 一年一度 酔っぱらう  
昔の友には やさしくて 変わらぬ友と 信じ込み  
あれこれ仕事も あるくせに 自分のことは 後にする  
**ねたまぬように あせらぬように 飾った世界に 流されず**  
**好きな誰かを 思いつづける 時代おくれの 男になりたい**

**目立たぬように はしゃがぬように 似合わぬことは 無理をせず**  
**人の心を見つめつづける 時代おくれの 男になりたい**

粗にして野ではあるが、卑ではなく屈ではない。  
寡黙であり野暮はしないが、怒るときは怒り、巧言はなく令色もない。  
決して自分から前には出ず、前に出ても余計なことはしない。  
名を出さず隠れもせず、目の前の子には視線を合わせる。  
ひとたび心に火がつけば、どこまでも突き進み、けじめをつける。  
後先への心遣いは何事にもいつも先に立つ。  
そんな自分になりたいと心から思わせてくれる人がいた。  
もう既に鬼籍に入られたが、9月20日になるとその人のことを思い出す。  
怒られたことは一度もない。いつもこの歌だけを歌っていた。

**目立たぬように はしゃがぬように 似合わぬことは 無理をせず**  
**人の心を見つめつづける 時代おくれの 男になりたい**

この人のようにいきたいと私は心に決めている。